

2. 学校教育の歩みなど ～子弟育英の礎～



北村幌達布公共用地
全国花いっぱい 自治大臣賞受賞記念

子弟の教育・開閉校の足跡

(1). 市街中心地域 西

岩見沢農業高校敷地内

岩見沢農業高校創立七十年記念

沿革 (裏面)

明治四十年三月 空知農学校創立
 十二月 北光寮開設
 大正五年 三月 演習林設定
 昭和十五年一月 現校舎落成
 二十三年五月 空知農業高等学校と改称
 二十九年八月 国民体育大会会場
 天皇皇后両陛下下行幸啓
 三十二年九月 創立五十周年記念式典挙行
 三十九年九月 農業クラブ全国大会開催
 四十三年四月 「自営者養成農業高等学校」
 文部省指定
 四十四年四月 自成寮開設
 六十二年九月 創立八十周年記念式典挙行

碧空にのびる母校は強く美しい年輪を刻み
 風雪ここに七十年 二十一世紀に大きく飛躍す
 ることを祈念しこの碑を建てる

昭和五十二年九月十八日

北海道岩見沢農業高等学校

創立七十周年記念事業協賛会 会長 湯浅 正太郎

相談役 栗山 雅智

学校長 矢口 猛

『至 誠』



『空知野の鐘』 創立八十年記念

本校の創立にあたり初代松澤校長は
 パイオニアの道標に この鐘を掲ぐ
 清澄なひびきに悠遠の生命はぐくみ
 晴耕雨読 ここに学び巣立ちしもの
 真実の灯を求め歩みは強し
 おゝ空知野の鐘 今も時をきざみて
 ここに建つ

昭和六十二年九月六日

創立八十周年記念事業協賛会会長

(父母と先生の会会長) 森 本 和 男

同窓会長 北 修 二

学 校 長 佐 藤 博

題字・碑文 第四十代校長 佐 藤 博



岩見沢農業高校敷地内
流汗悟道



向上無限



岩見沢農業高校敷地内

創立百周年記念碑

校歌（表面）

- 一、有明月の影淡く 雲井の端に落つる時
見よ見よ見よや 見よや見よ
希望の光りてりそめぬ
- 二、金糸銀糸の繡の雲 水や空知の野に映ゆる
見よ見よ見よや 見よや見よ
フイバスの神の御姿を
- 三、御銚ぞ拓く常闇を 鋤と鍬斗で耕きかへす
見よ見よ見よや 見よや見よ
吾等は強き国民ぞ
- 四、励めいそしめ諸共に 国の真柱いざ立てん
見よ見よ見よや 見よや見よ
希望の光りてりそめぬ



校章の変遷（裏面）

- 〔制定〕 明治四十年六月八日
〔由来〕 札幌農学校農芸科廃止に伴い明治四十年三月本校創立。農芸科の徽章をそのまま継承した
- 〔制定〕 大正四年五月十二日
〔由来〕 獣医科から畜産科改称によりクローバーに農を掲げ農畜を現す
- 〔制定〕 大正七年四月十五日
〔由来〕 開校十年 本校の全容が整う。稲穂にリボンを巻き、蹄鉄を配し、中央に農を掲げる
- 〔制定〕 大正九年五月一日
〔由来〕 林科増設により前面改正。稲穂・クローバー・桐の中央に農を掲げ、農・畜・林を現す
- 〔制定〕 昭和二十三年五月三十一日（昭和二十四年四月から使用）
〔由来〕 中心の「農高」の文字を抱える稲穂は農業を象徴しており、実った稲穂は学問や人間的な成長・充実を意味し、農業学習を通じて、豊かな人材の養成を志向したものである
- 平成十九年七月十四日



北海道岩見沢農業高等学校
創立百周年記念事業協賛会建立

岩見沢農業高校敷地内
創立八十五周年校舎改築落成記念碑

碑 文

青春の思い出多き学び舎

三度この地に建つ

国務大臣 北海道沖縄開発庁長官

同窓会長 北 修二

本校は明治四十年に創立され、昭和十三年鉄筋コンクリート三階建てに改築し、至誠の学び舎として親しまれてきた。新校舎は平成元年起工、国際化時代にふさわしい施設設備をそなえ平成五年に竣工する。改築に当たり同窓会 父母と先生の会は協賛会を組織し、校庭の整備等数々の事業を実施した。碑文は内閣総理大臣海部俊樹から贈られ、岩見沢市の名木樹齢百十年の赤松は、東町の同窓生中村芳明の寄贈による。

平成五年六月

北海道岩見沢農業高等学校

協賛会 顧問 北 修二

会長 森本 和男

学校長 角田 順三



岩見沢農業高校敷地内

農 神 像



開校五十周年記念碑



校歌碑



北 光 寮 趾 碑

明治四拾年開校と共に この地に北光寮が創設され
爾来 半世紀 この学寮は多くの俊秀を育成して 本校
の教育に資するところが多かった 北光寮は昭和三十
二年 老朽の故にとりこわされたが 多感の青春をここ
に過した多くの卒業生にとって思い出多いその名を惜し
むの余り ここに銘記して 永く追懐の資するものである

昭和四拾三年拾月

学 校 長 勝目 孝雄

同窓会長 栗山 雅智

P T会長 寶崎 豊延



緑陵高校敷地内

創立二〇周年校舎落成記念碑

「拓明」 聡明な若人が自らを高め他を慈しみ

力を合わせ未来にはばたく姿を表現

制作 道展会員 本田 俊朗

揮毫 阿部 華雪（弘子）

「明日」 未来にはばたく若人として見聞を広めること

「日新」 日々新たなる自分を作り上げ向上すること

「信愛」 真の心を持ち慈しみ生きること

一九九四年一〇月一五日建立



北海道岩見沢緑陵高等学校
創立二〇周年校舎落成記念協賛会

文化センター敷地内

北海道廳立岩見澤高等女学校 北海道岩見澤西高等学校

跡地記念碑

建立趣意

北海道西高等学校は大正十三年三月十三日本道女子の高等教育を目的に北海道廳立岩見澤高等女学校として岩見沢町七條西三丁目に設立され昭和二十五年学制改革により 高校の再編成が行われ男女共学の北海道岩見沢西高等学校となり数多くの有為な人材を輩出しております。

昭和三十四年二月の不慮の火災のため校舎を焼失し昭和三十五年十月岩見沢市並木町三十番地に新築移転しました。数多くの思い出を有する跡地に記念となるモニュメントを建立したいと願う多くの要望を受け 昭和六十年八月の同窓会総会において記念碑の建立が承認され同窓生多数のご協力により高女ゆかりの藤棚にちなんで同色の天然石を使用して現在地に建立されたものであります。

この記念碑が同窓生の心の支えとして永遠に大きな役割を果たすことを願うものであります。

昭和六十三年八月二十日

岩見沢西高等学校同窓会会長

辰田 義太郎



岩見澤高等女学校校歌

空知の野邊にそそりたつ
わが学びやの明けくれや
乙女の胸に血おどる
高き理想を誰が知る

岩見沢西高等学校校歌

暑寒の峰を遠く見て
芝生に描く雲の色
若きわれらの生命はおどる
地は広く幸とこしえに
あまぬき恵みうけつぎて
とおときわれらの生命たたえん

中央小学校敷地内
開校六十周年記念碑



岩見沢農業高校敷地内
大道無門



市民健康センター敷地内(岩見沢市立女子高校跡地)

岩見沢町立女子職業学校

岩見沢市立女子商業学校

岩見沢市立高等女学校

岩見沢市立女子高等学校 跡 碑

昭和五十六年九月 建立



(2). 市街中心地域 東

東町地域 入徳公園

学舎を偲び

北の原野に開拓の鋤を振うきびしい生計の中に於いても 子弟教育に心血を注いできた先人の達見を誇りとする 明治19年7月入徳学舎を開設 明治32年東小学校として独立以来 参千の俊英を世におくる 入徳教育の流れの中に生きる吾等相籌り百年の歴史の重みを子々孫々に伝え学舎を偲び未来への飛翔を希い 入徳学舎由縁の地に之を建てる

岩見沢市名誉市民 川村 芳次 書



東町地区 入徳公園

二宮金次郎像

碑 文 遠久に報徳の流れ育む

産業報徳の精神の流れに生きる吾等は、今北海土地改良区東区支線組合統合の年に風雪に耐え幾星霜、報徳精神に生きた尊徳像を、開拓に由縁あるこの地に再建しその心と歴史の重みを、子々孫々に伝えもって未来への充実と飛翔を心から希うものである。

平成六年六月二十七日

東区支線組合



岩見沢小学校敷地内

記念碑 『希望』

岩見沢小学校

開校百周年記念事業協賛会

謹書 第28代学校長

深井 旭

平成2年9月



みなみ公園

北海道廳立岩見沢中学校

北海道岩見沢東高等学校

(石柱裏面)

北海道岩見沢東高等学校創立六十周年記念

岩見沢市開基百年記念協賛事業

一九八三年十月

北海道岩見沢東高等学校同窓会建之

野崎 一子 書



みなみ公園

岩見沢東高等学校旧校舎のあゆみ碑

- 大正 11 年 北海道廳立岩見沢中学校設立認可
岩見沢尋常小学校に於いて開設
- 12 年 新校舎竣工移転
- 昭和 15 年 市立岩見沢夜間中学校設立認可
市立夜間中学 北海道庁立岩見沢
中学校に於いて開校 同校々長兼務
- 20 年 市立岩見沢夜間中学 岩見沢市立中
学校となる
- 23 年 学制改革により北海道立岩見沢高等
学校となる
岩見沢市立中学校は岩見沢市立高等学校となる
- 24 年 校舎から出火し木造 2 階建約 1450 坪を全焼
- 25 年 復興第 1 期工事起工 岩見沢市立女子高等学校と統合し
北海道岩見沢東高等学校と改称
- 26 年 普通科 1 学級を商業科に転換 北海道岩見沢鳩が丘高等学校は道立移管となり
北海道岩見沢東高等学校（定時制課程）となる
本校定時制美流渡分校開設 復興第 2 期工事竣工
- 28 年 美流渡分校独立し北海道美流渡高等学校となる
札幌南高等学校通信教育部嘱託校となる
- 32 年 全日制普通科 1 学級増設 東校舎増築工事竣工
- 33 年 開校記念日を 10 月 13 日と定める
- 36 年 独立図書館建設工事竣工
- 37 年 北海道美流渡高等学校廃止定時制課程に統合
- 40 年 全日制商業課程募集停止 同課程普通科に転換
- 48 年 新校舎建築第 1 期工事着工
- 51 年 新校舎に移転完了

（裏面）

北海道岩見沢東高等学校旧校舎跡地整備

全日制 80 周年

北海道岩見沢東校等学校 記念事業協賛会

定時制 60 周年

旧校舎のあゆみ記念碑

寄贈

42 期 溝口 裕信

44 期 勝井 裕幸

平成 14 年 9 月 施工



南小学校敷地内

東町地区 東神社境内

日の出町地区 孫別公園

学ぶわれらが学びの舎

入徳学舎跡石柱

孫別小学校跡記念石柱



(3). 幾春別川右岸地域

西川町地区 西川向小学校跡地

西川向小学校跡地記念碑



西川町地区 西川向小学校跡地

西川向尋常小学校校舎記念校門



大願町地区 大願つつじ公園

『大願野の鐘』

この鐘は明治三十一年「岩見沢第一簡易教育所」が開設された時に備えられ 授業始め 休み時間の合図としてのどかな大願の田園に澄んだ音色を響かせ児童生徒はもとより道行く人々の耳にも快くなじんで来た 昭和二十二年小中学校併置校となり一時は学童の声が大いに賑わったこともあったが時代の変遷とともに昭和四十五年四月中学校が緑中学校統合となり昭和六十三年四月小学校も北真小学校に統合となる 明治 大正 昭和と多くの同窓生を送り出した懐かしい鐘も閉校後はひっそりと人目を忍んで来たが大願開基百年に当たり再び学校跡地のつつじ公園に蘇り大願の地名にちなんで「招福大願成就の鐘」として人々に親しまれむ昔ながらの音色を響かせている

平成六年六月吉日

西川向小学校閉校記念碑



大願町地区 大願つつじ公園

大願小学校開校70周年記念碑



岩見沢市教育長 小山 忠 弘 書
大願開基百年実行委員会

稔町地区 稔小学校跡地

稔小学校開七十周年記念碑

『 正しく 強く 美しく 』

稔小学校開校 80 周年記念碑

『 岩見沢市立稔小学校跡地 』

稔小学校は明治28年、入植者が開墾の苦勞と辛い生活条件の中で子弟の教育に力を注ぎ開設された「私立共立学舎」を前身として、明治40年に岩見沢川向尋常小学校として開設されました。以来、開拓者精神に培われた輝かしい伝統と校風を築いてまいりましたが社会情勢の急速な変化もあり、昭和63年3月に北真小学校へ統合され閉校になりました。

この記念碑は開校70周年と80周年の記念に建立されたものです。



(4). JR 函館本線沿線～幌向川下流右岸地域

下志文町地区 協和公園
協和小学校閉校記念碑



御茶の水町地区 お茶の水交流センター
学校敷地寄付者の石柱



御茶の水町地区 お茶の水交流センター
徳 化 碑
碑 文

旧師を偲び新憲法の公布を機とし茲に碑を建て
その徳を永く伝ふ

教育所創立 明治三十五年五月十日

尋常小学校創立 大正九年七月六日

昭和二十二年四月一日 建之

御茶水国民学校同窓会



(5). 幌向川上流沿岸地域

上志文地区 上志文小学校跡地

上志文小学校閉校記念碑

『上志文小を偲ぶ』



二宮金次郎像



上志文地域 メープル小学校敷地内

栄中学校閉校記念碑



上美流渡地区 栗沢工芸館敷地内

上美流渡小学校閉校記念碑

『母校を偲ぶ碑』



万字地区 万字小学校跡地

万字小学校閉校記念碑



万字小学校開校70周年記念碑



朝日地区 朝日ふれあい広場
朝日小学校閉校記念碑



毛陽地区 メープルロッジ敷地内
毛陽小学校閉校記念碑

『母校を偲ぶ碑』



(6). 栗 沢 町 地 域

本町地区 栗沢文化センター敷地内
栗沢高等学校閉校記念碑

昭和二十三年十二月一日 空知農業高等学校
栗沢分校として開校

昭和四十九年三月 閉校記念
栗沢町長 西 川 實 書



本町地区 栗沢小学校敷地内
開校百周年記念時計塔



北斗地区 西地区文化センター敷地内
開校八十周年記念時計塔



北斗地区 西地区文化センター敷地内

二宮金次郎像



北斗小学校閉校記念碑



岐阜地区 岐阜地区集会所敷地内

岐阜小学校開校・閉校記念碑

『開校碑』



『閉校碑』



由良地区 由良地区文化センター敷地内

由良小学校閉校記念碑

『母校を偲ぶ』

明治三十五年四月一日

第一簡易教育所 認可

大正二年三月二十三日

由良尋常小学校と改称

昭和四十五年三月三十一日

栗沢小学校と統合 廃校

卒業生 六百八十名

由良開基百年記念事業

同窓会長 南 達雄 謹書



茂世丑地区 茂世丑公園

茂世丑小学校記念碑『回想』



二宮金次郎像



碑文

回想 新時代に即応し、本町教育発展の布石として統合を決定し、75年の輝く歴史を閉じ、愛情と信頼に培われた誇りある本校の伝統を未来に託す

昭和49年3月31日

茂世丑小学校閉校記念協賛会

明治三十一年六月二十五日 公立空知郡茂世丑尋常小学校認可

明治三十二年五月四日 開校 単級

明治四十五年四月十五日 終業年限二ヶ年の補習科併置

大正十一年三月十七日 終業年限二ヶ年の高等科を併置して、校名を
空知郡茂世丑尋常高等小学校と改称

昭和十六年四月一日 「国民学校令」公布、施行により、茂世丑国民学校と改称

昭和二十二年四月一日 学制改革で茂世丑小学校と改称。新制中学校併置

昭和四十七年九月五日 栗沢小学校と名目統合

昭和四十九年四月一日 栗沢小学校と実質統合

上幌地区 上幌地区集会所敷地内

上幌小学校 『閉校記念の碑』



二宮金次郎像



蛭雪七十余年千三百二十五名の卒業生を輩出してその歴史を了する。

ここに部落発展の夢を託して創立された先人の心を偲び その伝統を

守りその偉業を受け継ぐ決意の標としてこの碑を建つ

昭和四十九年三月十五日

宮村地区 宮村地区集会所敷地内
皇太子殿下御手播五本松

当時の宮村分教場にはご真影はなく、従って奉安殿ありませんでした。このような分教場は空知管内に三ヶ所あり、それぞれに皇太子殿下（後の昭和天皇）御手播の落葉松の苗五本の御下賜がありました。終戦の頃まで子供たちは、登下校の際には必ず記念碑に向かって最敬礼したといわれ、校下の人達は、すすすす育ちいく落葉松を「五本松、五本松」と言って宮村連帯のシンボルのように親しんできました。残念ながら、十数年前にそのうちの一本が枯れて四本松になってしまいました。この中に一本だけ赤い木肌のものがありますが、言い伝えによると苗木のときに一本が枯れて補植したものだそうです。七十数年を経た今日、このような由緒のあるものが現存する事は当地だけであり、誠に希少な遺産と言うべきでありましょう。



宮村地区 宮村地区集会所敷地内
宮村小学校閉校碑

明治四十五年上幌小学校宮村分校として開校、以来七十一年風雪に耐え、この地の歴史と共に歩み続け三百五十二名の宮村っ子を導き育てた宮村小学校、昭和五十八年三月に閉校す

昭和五十八年三月三十一日

閉校記念協賛会

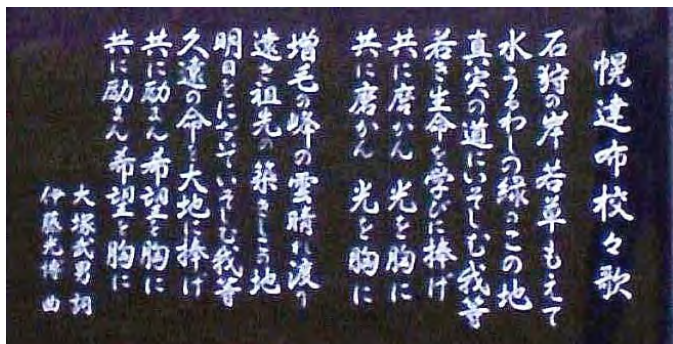


(7). 北 村 地 域

幌達布地区 幌達布公共用地

幌達布小学校閉校記念碑

『幌達布学び舎の碑』



幌達布教育の史跡

明治二七年	私設幌達布教授場として開始
三二年	美唄達布補助教育所設置
三三年	幌達布簡易教育所となる
三四年	美唄達布簡易教育所となる
四五年	両教育所合併し、幌達布尋常小学校に改称
昭和十六年	幌達布国民学校に改称
二二年	幌達布小学校に改称（平成九年三月まで存続）
二四年	幌達布中学校が併置される（～昭和四三年）
五四年	花いっぱいコンクール自治大臣賞受賞
平成 六年	幌達布小学校開校百周年記念式典举行
八年	幌達布小学校開校式典举行（九月）
九年	幌達布小学校閉校（三月）



二宮金次郎像

幌達布地区 幌達布公共用地 全国花いっぱい 自治大臣賞受賞記念碑

環境づくりをとおして子どもに美しい心、豊かな心情を培うため全校あげて子どもと教職員そして父母、地域の人々の努力と汗の結晶により昭和五十四年十一月二十四日全国花いっぱいにて自治大臣賞の栄誉に輝く。ここに受賞を記念して銘を刻む

建立年月日 昭和五十五年九月

建立者 北村立幌達布小学校
父母と教師の会



砂浜地区 砂浜地区公民館地先（公共用地）

砂浜小学校閉校記念碑

『砂浜小を偲んで』



二宮金次郎像



北村神社境内

旧北村国民学校奉安殿



北都地区 旧北村小学校跡地

北村小学校跡地記念碑



赤川地区 赤川地区公民館敷地内

赤川小学校跡地記念碑

